

港区野跡学区

震災避難行動マップ

マンションでの防災

近年起きた震災では、高層建築、共同住宅ならではの問題が起きています。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

阪神・淡路大震災、東日本大震災ではこんなことが起きた。

- 上層階は揺れ幅が数mあった。通路にあった給湯器の貯湯タンクが次々転倒し、400ℓの熱湯が流れ出た。家具はすべて倒れ、ガラス扉を突き破って食器類が飛び出して割れた。
- 玄関ドアやサッシの開閉ができなくなり、閉じ込められた。地上なら道行く人に気づいてもらえたが、高層階では窓から助けを呼んでもなかなか気づいてもらえなかった。
- 電気、ガス、水道が止まった。エレベータが復旧するまで20階近い階段を徒歩で上り下りして水や食料を運んだ。自衛隊やボランティアは地上を中心に活動しており、取り残された。



総会や住民集会などの機会を活用し、避難通路の検証や各家庭での自助の取組（家具の転倒防止、ガラスの飛散防止、保存食や水の備蓄、災害時の家族の連絡方法を話し合う等）について、マンション住民で話し合しましょう。



指定避難所・津波避難ビル一覧

施設名称
野跡小学校
野跡コミュニティセンター
稲永スポーツセンター
稲永荘集会所
みなと荘1棟集会所
みなと荘6棟集会所・みなとシルバー南集会所
みなと荘7棟集会所
シティファミリー鴨浦集会所
野跡小学校
シティファミリー稲永
シティファミリー鴨浦
梅ノ木荘1・2棟
みなと東シルバー住宅
みなと西シルバー住宅
みなと南シルバー住宅
シティファミリーみなと
みなと荘1~4, 6, 7棟
稲永荘1~5棟
南稲永荘南棟
南稲永荘北棟
名古屋市国際展示場（交流センター・立体駐車場）
空見スラッジリサイクルセンター
金城ふ頭駐車場

地域防災協力事業所

二チ八株式会社名古屋工場（港区汐止町12番地）	一時的な避難場所（敷地・建物一部）の提供、救出資器材の提供等
愛知機械工業株式会社永徳工場（港区野跡五丁目4番16号）	一時的な避難場所（敷地・建物一部）の提供、救出資器材の提供等
株式会社フジトランスコーポレーション（港区金城ふ頭2-7）	生活物資の提供、荷役機器の提供
名古屋埠頭株式会社（港区潮風町無番地）	救助活動用資器材の貸出及び操作人員の提供等

凡 例

	指定避難所		広域避難場所
	津波避難ビル		一時避難場所
	地域防災協力事業所		地下式給水栓
	AED		

わが家の津波避難先

わが家の津波避難先

津波や高潮から大切な命を守るために！

“3+(さんプラス)運動”を実施！

この地域に大津波や高潮の危険が迫っているときには、大切な命を守るためにお住まいの階から3階上の階へ逃げましょう！

“1階にお住まいの方は4階へ！” → 人が殺到してもみんなが助かります

“2階にお住まいの方は5階へ！”

通路には物を置かないように！！日頃も災害時もみんなが困ります。

避難通路の確保

皆さんが通る廊下に物が置かれていると、津波から逃げる際の避難経路や避難スペースが十分確保できなくなってしまいます。玄関前の廊下などには絶対に物を置かないようにしましょう。



南海トラフ巨大地震発生時の対応

～大声で 声をかけ合い 一斉避難！～

港区野跡学区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、学区の一部地域では震度7、その他全域では震度6強の非常に激しい揺れが想定されます。自分の身を確実に守るため、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。

また、津波が他の地区よりも早く到来します。浸水が1.5mから2.0mに及び箇所もあります。名古屋港への最短津波(30cm)到達時間は96分と予測されており、遡上はその後始まります。この時間を最大限に使い津波避難ビルへ避難しましょう。

また、液状化現象も起きる可能性も高い地区です。建物が傾いたり、路上に泥水があふれ出して通ることができなくなります。これらを踏まえ、適切な避難先と、そこまで安全にたどり着くための経路をあらかじめ考えておきましょう。

- 身の安全を確保する
- 安全に消せる場合は火を消す
- 可能であれば、扉を開けて出口を確保する
- 倒れそうなタンスなどの家具、ガラス戸から離れる
- 机の下に隠れ、机の脚を掴み、低い姿勢で身を守る
- 屋外にいる場合は、建物やブロック塀など、倒壊の危険がある場所からすぐ離れる



提供 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

避難する時間がなくなってしまうときは、声をかけてやめて、自分自身の安全を確保！

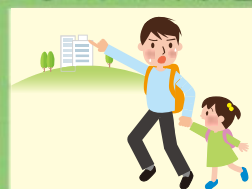
- 家族、隣近所への声かけ、安全・安否の確認、情報交換する
- 家屋、近所の被害状況を確認
- 火元を消す・ブレーカーを落とす
- ガス・水道の元栓を閉める
- 扉を開けて出入口を確保する
- テレビやラジオ等で正しい情報を収集
- 非常持出袋を確認する

「3+ (さんぷらす) 運動、3階上を目指し避難開始

地震発生

津波から安全に避難するための5つのポイント

①揺れがおさまったら高台へ、時間がなければ津波避難ビルへ避難！



②隣近所へ声をかけ、原則徒歩で避難！



③高齢者や障がいのある方などの避難支援を！



④引き返さない！安全確認が済むまで避難継続を！



⑤海岸や川沿いには絶対近づかない！



津波発生時の地域での声かけ・避難支援

＜声かけ・避難支援のポイント＞

- ① 町内の組単位、お住まいの階ごとなど、隣近所で「声かけ」して、無事を確認しあう
- ② 無事が確認できた住民同士で、無事が確認できないお宅へ「大きな声で」声かけを繰り返す
- ③ 一人で避難できない方を助けながら、津波避難する(3+(さんぷらす)運動)
- ④ 避難の際は、近隣で助けを求められないか、大きな声で確認しながら避難する
- ⑤ 逃げ遅れて大切な命を落とすことのないよう、津波到達予測時刻の30分前までに避難完了する

隣近所など地域での「声かけ」と「避難支援」が大事な命を救います。

地震の揺れがおさまったあとは、地域の皆さんで声かけをし、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

また、日頃から一人で避難できない方(高齢者・障がいのある方など)を把握しておきましょう。

情報の入手や判断が難しい方

(例えばこんな方)

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障がいのある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

(対応方法)



移動が難しい方

(例えばこんな方)

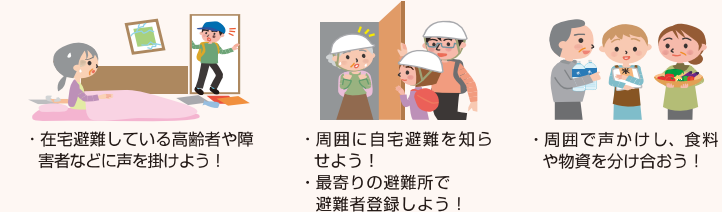
普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

(対応方法)



在宅避難のススメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける“在宅避難”を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



- 避難に適した靴を履いて外に出る
- 逃げ遅れないように早目に避難を始める
- 隣近所へ大きな声で声をかけながら、上階へ
- ラジオ、スマートフォンなどで適宜、情報を確認する
- 持てる量の非常持出袋を持って行く
- 落下物など周囲に気をつける

津波警報解除
避難勧告解除

災害の危険解消
自宅での滞在が可能か

